



# 首里城公園

Shurijo Castle Park



首里城って  
どんなところかしら？

いいところさー  
案内しようねー

伝えたい、歴史と感動ロマン  
世界遺産“首里城”を歩く



# めんそーれ首里城へ



## 首里城公園見学コース

- ← 一般コース (約1時間20分)
- ← バリアフリーコース (約1時間10分)

● 車イスの貸出しについて  
 首里杜館と奉神門において車イスの貸出しを行っています (無料)。お近くの係員までお申しつけ下さい。

## 首里城公園有料区域観覧のご案内

広福門券売所で入館券をお求めください。(地図内 7 番)

有料区域となる施設  
 奉神門(改札)、南殿・番所、書院・鎖之間、正殿、北殿

- 有料区域への持込制限等
  - 飲食物、危険物、ペット等の動物。
  - 有料区域内は禁煙。

(すいむいかん)

## 首里杜館

公園内をはじめ、首里城周辺の文化財などに関する情報を提供しております。売店やレストランにてお過ごしいただけます。



・首里杜館内は禁煙です。  
 ・ビジターロビー、情報展示室内の飲食物の持ち込みは禁止です。



情報展示室



ショップ「紅型」



レストラン「首里杜」



スナック「龍槌」



### オリジナルグッズ

ショップ「紅型」では、代表的な伝統土産品はもちろん、キーホルダーやキャップなどオリジナル商品も充実しています。

# 首里城公園周辺散策マップ

～歴史と文化の香りあふれる古都を散策してみましょう～



## 交通のご案内

- ゆいレール (モノレール) ■  
儀保駅及び首里駅下車。徒歩15分で到着します  
●●●はモノレールの駅～首里城
- バス ■  
市内線を利用して首里城公園入口バス停で下車、徒歩5分で守礼門につきます。  
首里城下町線8番  
首里識名線1番  
石嶺線17番 糸満西原線46番
- 乗用車・タクシー ■  
首里社館地下駐車場にゆとりがある場合、係員の誘導により駐車することができます。

## 琉球王朝時代を彷彿とさせる“儀式の再現”!

首里城公園では、沖縄の伝統文化を継承・発展させるため、琉球王朝時代に行われた儀式などを再現するイベントを行っています。



新春の宴「朝拝御規式」  
「朝拝御規式」を毎年、1日～3日迄、御庭にて執り行っております。



中秋の宴  
旧暦8月15日(十五夜)頃の金、土、日に、かつて中国皇帝の使者「冊封使」をもてなした「冊封七宴」のひとつ。古典舞踊や組踊を披露します。



首里城祭「冊封儀式」  
琉球国王の即位式である「冊封儀式」。御庭にて執り行われる儀式は、優雅な雰囲気の中、厳かに行われます。

### ■入館料金 ※車イスもご利用になれます。

	大人	中人 (高校生)	小人 (小・中学生)	6歳未満
一般	800円	600円	300円	無料
団体	640円	480円	240円	無料
年間パスポート	1,600円	1,200円	600円	

- 正殿、南殿・番所、書院・鎖之間、北殿、奉神門のある区域は有料ですが、それ以外の場所への入園は無料となります。
- 団体は20名様以上

### 開館時間のご案内

### ■開園時間

- 4月～6月 8:00～20:00
- 7月～9月 8:00～21:00
- 10月～11月 8:00～20:00
- 12月～3月 8:00～19:00

### ■休館日

※維持管理上、毎年7月の第一水・木曜日を休館日とさせていただきます。

### ■首里社館駐車場ご利用料金

- 大型車 940円 (回数券11回分9,400円)
- 小型車 310円 (回数券11回分3,100円)

※尚、駐車場の予約は修学旅行団体に限ります。(バスのみ)

### ■開館時間

- 4月～6月 8:30～19:30
- 7月～9月 8:30～20:30
- 10月～11月 8:30～19:30
- 12月～3月 8:30～18:30

### 入館券販売締切

- 4月～6月 8:00～20:30
- 7月～9月 8:00～21:30
- 10月～11月 8:00～20:30
- 12月～3月 8:00～19:30

### 料金のご案内

# 空から首里城公園を望む

～二重の城壁に囲まれた美しい首里城を空から眺めてみましょう～

450年以上にわたり中国をはじめ、日本や朝鮮、東南アジア諸国との外交・交易を通じ、独自の文化や芸能を華開かせてきた海洋国家『琉球王国』。首里城は王国の政治や経済、文化の中心であり、琉球全体に広がる信仰の拠点でもありました。首里城は国営沖縄記念公園として沖縄の歴史や文化を今に伝え、未来へ受け継いで行くため整備が進められています。



空から見ると城郭や建物の形がよく分かるわね！

## 歓会門

首里城の正門。中国皇帝の使者「冊封使」など、訪れる人への歓迎の意を込めて名前がつけられました。別名「あまへ御門」。

## 龍樋

「瑞泉門」の手前がある湧き水。国王一族の大切な飲料水で、「冊封使」が訪れた際には宿泊先の「天使館」まで届けられました。

# ～首里城散策～

中国や日本の影響を受けながら、琉球独特の建築技術によって建てられた首里城。各建造物の役割や先人達の思いをたどりながら、首里城を散策してみましょう。

## 冊封七碑

中国皇帝の使者「冊封使」が「龍樋」の清らかな水を讀んで、詠んだ詩が刻まれた7つの石碑があります。

## 瑞泉門

瑞泉とは、「立派なめでたい泉」という意味です。門の前にある湧き水「龍樋」にちなんで名付けられました。別名「ひかわ御門」。

## 漏刻門

櫓の中の水時計で時刻を計ったことで名付けられた門。別名「かご居せ御門」。身分の高い役人も国王に敬意を表してここで籠を降りました。

## 日影台

「漏刻門」の正面に設置されている日時計。1739年から使われ始めたといわれ、1879年の廃藩置県まで王国の時を刻み続けました。



ここを開けて、完成した首里城を見ようねー

平成15年10月撮影

## 供屋

首里城の「正殿」に掛けられていたとされる「旧首里城正殿鐘」の複製が設置されています。刻まれた銘文から「万国津梁の鐘」とも呼ばれています。

## 広福門

東側には戸籍の管理をする「大与座」、西側には寺や神社を管理する「寺社座」がありました。別名「長御門」。現在は券売所。

## 下之御庭

首里城「正殿」の「御庭」へ入る前の広場。建物の工事の際には資材置き場として、また、「御庭」で行われる儀式的控えの広場として利用されました。

## 系図座・用物座

「系図座」は士族の家系図の管理や王府資料の編集、「用物座」は城内で使う物品や資材等の管理をしていました。現在は休憩所、情報案内所。

## 木曳門

王朝時代、首里城の建物の建設や修理、石積修復工事の資材搬入時に使用され、普段は石を詰めて閉じられていました。現在は見学ルートの入口。

## 西のアザナ

城郭の西側に作られた展望台で、ここからは那覇港の様子を望むことが出来ます。首里城内をはじめ、那覇市街地や慶良間諸島が一望できます。

## 京の内

城内最大の祭祀空間。神聖な御嶽が数多くあり、「聞得大君」などの神女により王家繁栄、航海安全、五穀豊穡が祈られました。

## 首里森御嶽

城内にある礼拝所のひとつで、琉球最古の歌謡集「おもろさうし」に数多く詠まれています。神話には「神が作られた聖地である」と記されています。

## 奉神門

「御庭」へ続く最後の門。3つの入り口があり、中央の門は国王や身分の高い人だけが通れる門でした。別名「君誇御門」。

## 御庭

「正殿」や「南殿・番所」、「北殿」、「奉神門」に囲まれた首里城の中心的な広場で、年間を通じてさまざまな儀式が行われていました。

## 南殿・番所

「南殿」は主に日本風の儀式や薩摩の役人達の接待所、「番所」は首里城に登城してきた役人達の取次場所でした。現在は展示室。

## 書院・鎖之間

「書院」は国王が日常の政務を行った建物でした。「鎖之間」は王子などの控室であり、諸役の者達を招き懇談する施設だったといわれています。

## 正殿

国王自らが執り行う政治や儀式的中心だった建物。中国の宮殿建築と日本の建築様式を基本に琉球独特の意匠に仕上がっています。

## 北殿

今の大臣にあたる三司官や多くの役人が務めた所。冊封使歓迎やハリー提督の歓迎式にも使われました。現在は映像・展示・休憩コーナー、売店。

## 右掖門

「久慶門」より東へ長く伸びた石畳の坂道の上にあり、国王やその家族が暮らす「御内原」へと続く通用門でした。別名「よそへちの御門」。

## 久慶門

城外へと続く出口にあたる門で、通用門として主に女性利用していました。別名「ほこり御門」。「ほこり」とは「喜び誇る」という意味です。

# 首里城完成予想図

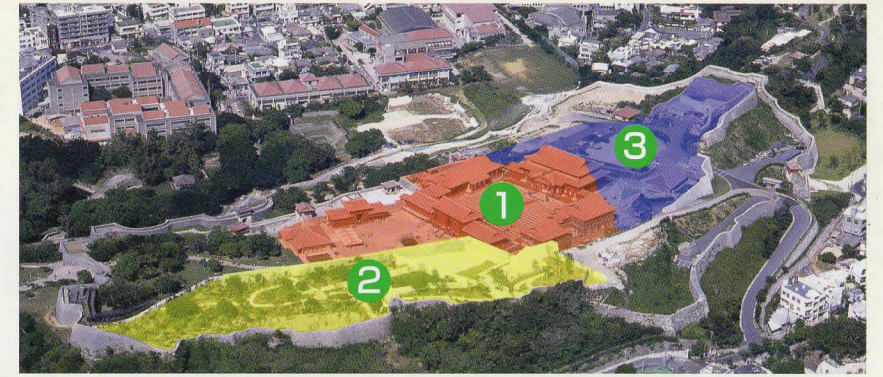
～整備される首里城、今後の建設予定～

首里城はその役割から、大きく3つの空間に分けられます。正殿や南殿・番所、北殿、書院・鎖之間など、御庭とよばれる広場を中心に、政治や外交が行われた『行政空間』。そして、信仰上の聖域が点在する城内でも、最も神聖な聖地として崇められた、京の内の『祭祀空間』。さらに、国王とその家族が住む御内原と呼ばれた『居住空間』です。御内原については、現在(平成19年1月)「世誇殿」「黄金御殿・寄満」「二階御殿」「淑順門」「美福門」などの計画・整備が進められており、完成後、随時追加開園していく予定です。

尚、下の写真は首里城の完成予想図です。

## 主な3つの空間

- ① 行政空間
- ② 祭祀空間
- ③ 居住空間



琉球王国が再現されたみたいね！早く見てみたいわ

完成した首里城が見られるなんて夢みたいだね

首里城完成予想図 平成16年3月作成

## 御内原 ～浮かびあがる「御内原」の姿～

正殿の東側一帯は「御内原」と呼ばれ、国王とその親族、そこに仕える多くの女性が暮らす男子禁制の場でした。正殿を境に、西側が政治や外交を中心とした「表」の世界であったのに対し、ここは、女性がすべてを取り仕切るいわば「奥」の世界でした。では、「御内原」の各建造物についてご紹介しましょう。

**淑順門**  
国王やその家族に仕える女官たちが、「御内原」へ入るときにくぐった通用門です。別名「お中御門」。

**世誇殿**  
国王が亡くなると、次期国王の即位の礼が行われた場所。普段は、未婚の王女の居室として使用されていました。

**白銀門**  
「寝廟殿」に通じる正門で、国王だけが出入りすることが出来ました。別名「しろがね御門」。

**寝廟殿**  
国王が亡くなった際、その亡きがらを一時、安置した所。

**東のアザナ**  
城の東側に築かれた物見台で、首里城一帯や城下が見渡せました。

**黄金御殿・寄満**  
「黄金御殿」には、国王と王妃の居間や寝室があり、「寄満」ではその食事が調理されました。

**二階御殿**  
国王が日常を過ごした居室で、廊下を通じて「正殿」までつながっていました。

**美福門**  
「御内原」への入り口のひとつで、「継世門」が建つ前はここが城の東門でした。当初は赤田に面していたことから「赤田御門」と呼ばれていました。

**継世門**  
普段は通用門でしたが、国王が亡くなると、城外に住む世継ぎの王子がこの門から城内に入り王位を継ぎました。